第５４４回　長野放送番組審議会

１．　開催年月日　令和５年１１月１５日（水）午前１１：００より

２．　開催場所　　長野放送本社会議室

３．　委員の出席　○委員総数　　８名
○出席委員数　７名
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）
委員長　　林　新一郎
副委員長　井口　弥寿彦
委員　　浅井　隆彦
委員　　笹本　正治
委員　　武重　正史
委員　　中山　潔
委員　　南澤　光弥
○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）
委員　　加藤　恵美子
○放送事業者側出席者名
外山　衆司　　（代表取締役社長）
船木　正也　　（常務取締役　編成業務・放送番組審議会担当）
久保　善一　　（取締役　報道制作・企画事業担当）
西條　彰浩　　（報道制作局長）
早川　英治　　（編成業務局長）
浅輪　　清　　（編成業務局次長　兼　考査部長
兼　放送番組審議会事務局長）
北澤　輝久　　（編成業務局編成部長　兼　視聴者室長）
伊藤　晴彦　　（報道制作局次長）

４．議題

（１）番組審議

『　ＮＢＳフォーカス∞信州

ジジゲイニンナンデス　～プチ鹿島式社会の見方～　』

令和５年９月２９日（金）１９：００～１９：５７　放送

（２）「長野放送　番組基準」の一部変更について（答申）

（３）視聴者対応報告（令和５年１０月分）

（４）その他

５．議事概要

（１）番組審議

・プチ鹿島さんは信毎のコラム等でズバズバ言う人で、どんな人かなと気になっていたので、今回この番組を視聴してどんな人なのか、どんな取り組みをし、どんなことをしているのかということが良く分かってありがたかった。

・毎日２時間かけて１５紙を読み、自分の考え方とか見方でそれを判断してということで、そういった基礎がしっかりしているからいろんなメディア対応やいろんな分野での取り組みにしっかりした評価が得られるのだろう。

・それぞれの新聞がどういった立ち位置で捉えているかというところを比較しているというのは興味があったし、それをネタとして捉えているところは非常に面白い視点だと思った。

・プチ鹿島さんの言動を追いかけることでメディアからの情報をそのまま受け取るのではなく、自分で考えて確認していくメディアリテラシーを分かりやすく伝える番組になっていたのではないかと感じた。

・どの論調に近いか自分なりに考えてみるとか、見たいものや知りたいことばかりではなく、関心がなかった分野の記事も目に飛び込んでくる紙面の一覧性に良さがあるとか、紙面構成の中で見出しを追って見るだけでも良いとか、新聞の特徴を知り尽くした上での楽しみ方を伝えてくれていた。

・子どもの頃から好きだったというプロレスを題材にして、一体どこまでが真剣勝負でどこからがショーなのか半信半疑で見つめながらじっくりと考え、自分なりのバランス感覚と言うか、物の見方を培っていく彼の過程が、これはまさしくメディリテラシーの養い方に通じる内容になっているのではないかと思った。

・新聞・雑誌・ラジオ等のマスメディアに出つつも、自由度の高いポッドキャストやユーチューブに繋げて、さらには舞台や映画、ある意味タブーが強くないところに持って行って思いのほか自由に表現をするのが、表芸になっているというところにプチ鹿島氏の強みがあるのかなと思った。

・ネットメディアの力に乗せたことでコアなファンを獲得していったということがあるのではないかなということを強く感じた。

・各メディアに応じてどこで何を発信すればいいのかだんだん分かってきた、まだまだ伸び代があるよっていうようなニュアンスのことを発言していましたけれども、意図的に使い分けたり増幅させたりしているのだと思い、たいへんに頭の良い方だなということを感じた。

・様々な立場や考え方を受け止めて、物事の多面性を認め、それを違いや多面性を面白がって楽しもうとしている彼の姿勢というのは、ぎすぎすした世の中の雰囲気にも何か影響を与えていってくれる可能性があるのではないかと思った。

・非常に個性的な県出身芸人がいますが、その中にまた一人、非常にあれこれこだわって理屈っぽい所に何となく県民性を感じさせる時事芸人が加わったことを広く知らしめてくれた番組だった。

・時事ネタのトークから活躍の場を広げて選挙、沖縄の問題、映画の制作と活躍の場をどんどん拡大して今までになかった新たな分野を切り開くということなので、これからも益々注目しながら期待をして見ていきたい。

・このドキュメンタリー番組で伝えたかった部分というのは、例えばメディアへの

向かい方だとか、現在のメディアの状況だとかが、この方を通じて垣間見えてくるという所があったのではないかと理解した。

・今回の番組はプチ鹿島という人を通して、いろんな意味で今の社会の状況を極論に振れがちで分断を図ろうとする勢力に対して、どうこれを見ていくのかという所にメッセージというか、少しそこに考えを及ぼすというような狙いがあったのかなと感じた。

・長野県からは素晴らしい人がいっぱい出ている中で、この人を選ばねばならなかった理由がよく分からなかった。扱うだけの理由を前面に出して、もう少し腑に落ちるような形にしてほしかった。

・なぜこの方なのか、何をご紹介するのか、狙いがどこにあるのかということから、少し疑問を持たれて見始める方も多かったのではないかなとも思う。

・全体として話があちこちに飛んでいる印象があって、最初に番組を見た時には、なかなか捉えづらいという感じがした。

・選挙は「エモいね」という言葉が出てくるのですけれども「エモいね」という言葉すら辞書を引かないと分からなかった。時事芸人とは何ぞやという入口もよく分からなかった。中に出てくる言葉の説明一つずつが理解できない点がいっぱいあった。

・ポッドキャストを自分で調べてみたりしたので専門的な用語について少し補足していただけると分かりやすかった。

・ポッドキャストというのは何がどうユーチューブとは違うのかなど、中高年の視聴者にもわかりやすい説明が一言添えられていれば良かった。

・例えばポッドキャストとか舞台とかを長く、一つのネタぐらいを番組の中で見せていただくと、この人がどんな発信の仕方をしているのか、もうちょっとわかったと思う。

・できればピン芸人鹿島さんの本当のピンでやっている芸を見たかった。

・もうちょっと絞ってやったらもっと面白く狙い通りのプチ鹿島氏の新しい時代、ネットやユーチューバー等新しいメディアに対応する、もしかしたら２１世紀のチャーリー・チャップリンになるのではないかなと期待させるような深掘りができたのではないかなとも思った。

・ネットの世界になった時、紙面でないものでしか見ていない状況の中で見比べとは一体どう考えていったらいいのか、時代の最先端にいながら一方では古い所に拘泥している、その部分の価値の判断というのがよく分からないと思った。

（２）「長野放送　番組基準」の一部変更について（答申）

長野放送「番組基準」が日本民間放送連盟の定める「放送基準」に準拠していること、その「放送基準」が改正されること（令和６年４月１日施行）を資料に基づき事務局が説明、改正部分について意見を求めた。その結果、長野放送の「番組基準」も民放連「放送基準」と同じく、当該部分を改正することについて番組審議会から「妥当である」との答申があった。

（３）視聴者対応報告（令和５年１０月分）

資料に基づき、令和５年１０月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

配布資料

・第５４３回番組審議会（令和５年１０月）議事録

・「長野放送　番組基準」の一部変更に関するご説明資料

・視聴者対応報告資料（令和５年１０月分）

・モニターリポート

・ＢＰＯ報告（ＮＯ．２５６）

・民間放送（第２２２０、２２２１号）　　以　上